

帽をとめたくし

フワフワとヨシギツズの本をえるとバクウと靴

と手ヲケと帽子がのりていた

いったいこの多くの甲から居しいまのまえ

らぶなるとあつかしそうだ

ページをゆくとでもゆくとでも靴はくつ靴

が終ると今度はおしやれなバツが買物甲の

手ヲケそくて帽子、夏用の帽子ばかり、本

と気が見ているとつかれてしまいいろろだ、ハン

バウとゆめくつ、次に目についたものをい

くり見ることにした。

帽子は毛子ルがかぶっていらるから毛子ルに

たあうたりるのを千エツクする、毛子ルがエ

しがないたうちり毛子ルだうたりするとそれ

に影郷されてしるうのだ

そしてメリカ物だうたり、<sup>実名</sup>買用本意だう

たりで目が千う千うしてきて河原を見ろう

えもうやめようと本をといましてすうた

私はいうたい本をに貸しかうたうだろるか

たぐをうていいいじやあいかと思うてしるうた

ところが次の日ニリずに又多くの帽子を見る

ことになつた少しお歩ついて見るニとが

来ようになつたそして夏場のあつさから

少しでも涼しくしてくぬるまゝを考えると

こゝではじめあつた考えはいいのだ

枅實を見てみる、今迄気がつかずかかつた木

これまでは線、シルク、ポリエステル、あるいは

考えついたものが紙が身なるのだ紙を<sup>ま</sup>せてあり

こんだまの紙そのものを布のようにおつたも

9 だ  
まが  
紙だ  
と  
か  
る  
い  
し  
涼  
し  
い  
の  
だ

